

減災館完成式典を挙行

●減災連携研究センター、災害対策室

減災連携研究センターと災害対策室は、3月12日(水)、減災館の完成式典を挙行了しました。減災館は東山キャンパス初の免震建物で、防災対策として自家発電装置や太陽光発電装置、貯水槽などを備え、食糧・医薬品などを備蓄し、さらには自治体との衛星通信装置や地方整備局との長距離無線 LANなどを備えています。減災社会の実現を目指して建設された減災館は、平常時は減災に関する研究と教育、また各種セミナーなどで市民とつながりを持ち、大規模災害発生時には各種機関と連携しながら、大学や地域の災害対応の拠点となります。普段は1階と2階を市民に開放して最新の研究成果を分かりやすく展示し、市民向け講演会なども定期的に開催する予定です。

完成式典は、磯谷桂介文部科学省研究開発局審議官、八鍬 隆国土交通省中部地方整備局長、神田 豊名古屋地方気象台長、片桐正博副愛知県副知事、三輪弘光名古屋消防局防災・危機管理監等の来賓者と濱口総長をはじめとする本学関係者の出席のもとで行われ、野田利弘同センター長の司会により、まず福和同センター長から減災館の



減災館全景

完成した喜びと関係者への感謝のあいさつがありました。次いで、総長からは、日々の生活に密着して来るべき地震等に対応する減災館への期待を込めたあいさつがありました。来賓者からは、まず磯谷審議官が祝辞を述べ、南海トラフ巨大地震対策のプロジェクトなどの中心を担ってほしいと激励しました。また片桐副知事からは、地域の防災教育の拠点としての減災館に期待を込めた祝辞がありました。

記念のテープカットは、磯谷審議官、片桐副知事、総長、竹下事務局長、福和同センター長及び飛田災害対策室長の6名で執行了しました。式典の最後に飛田災害対策室長から、関係者への謝辞とともにこれからの減災への取り組みへの決意を込めたあいさつがありました。

式典後には減災連携研究センターと災害対策室の上掲式が行われ、それぞれの銘板を減災館の正面玄関に上掲し、最後に参加者全員で館内の見学会を行いました。



テープカットの様子



模型を使った説明の様子